

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市井田学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市稲熊町字後田19番地7
施設規模	敷地面積：2025.11㎡ 建物面積：499.25㎡
指定管理者	名称：岡崎市井田学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市稲熊町字後田19番地7 代表者：委員長 倉知初男
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ペットボトルロケット飛行大会
実施内容	ペットボトルロケット作成 AOIフライングクラブ協力 小学校グラウンドにて飛行大会 計測 表彰・景品
実施回数	1回
参加人数(人)	38人 (こども：14人、おとな：24人)

(2) 事業実施に対する自己評価

飛行大会実施のリクエストもあり、AOIフライングクラブさんの協力のもと実施。
全速力でロケット回収をする子供たちのすがたが、楽しそうで印象に残った。
学区こどもの家に対する関心を高めるとともに、地域の人々の理解を深める事が出来た。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	359	29448	567	5902	35350

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、現場の指導員と連携を密にして
本年度も多くの児童が来館した。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入		409,000
	その他収入	前年度剰余金	3,827
収入 計			412,827
支 出	直接管理運営費	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	397,742
	(うち修繕費)	※精算項目	89,044
	その他	当期剰余金等	1,5085
支出 計			412,827
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修繕、消耗品の購入等、現場の指導員の先生と連携をし、適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用団体とは連絡をみつにして、要望に対して柔軟に対応した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用団体との会議を開催して、苦情対応を行った。

今後も各団体と直接連絡をとりあい、苦情のないよう適正な管理運営を心掛けたい。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市城南学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市城南町一丁目5番地1
施設規模	敷地面積：1921.47㎡ 建物面積：499.8㎡
指定管理者	名 称：岡崎市城南学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市城南町一丁目5番地1 代表者：委員長 殿井 潔香
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	人形劇団 手風琴 による ショー
実施内容	人形劇団 手風琴(酒井利幸氏)による パネルシアターと 人形劇 ・でてきたものなどなど と 手探りゲーム
実施回数	/ 回
参加人数(人)	48 人 (こども：39人、おとな：9人)

(2) 事業実施に対する自己評価

・昨年の反響を受け再度依頼。モズデイズ初日で低学年が多かったがリズムある演者の歌声に手拍子でたえ、楽しく過ごせた。
・運動大好きな子が多いので、来年度は体を動かしてできるふれあい事業を考えたい。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	356	10534	371	4231	14765

(2) 利用状況に対する自己評価

・安全な子どもの遊び場として、学校や保護者、地域住民にご理解をいただき、夏休み以降、子どもの来館が倍増した。
・大人利用については、地域の認知度も高く、新規申し込みもあり、多くの利用があった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入 (A)		405,000 ✓
	その他収入 (B)	雑収入 令和5年度剰余金	39,688 ✓
収入 計 (A + B)			444,688 ✓
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	423,364 ✓
	(うち修繕費)	※精算項目	198,386 ✓
	その他 (D)	当期剰余金等	21,324 ✓
支出 計 (C + D)			444,688 ✓
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

〇 施設の修理、消耗品の購入等に費用を充て収支管理することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

〇 利用者へ、特に使用後の清掃等に協力いただき良い環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

〇 利用団体との会議等を開催しニーズ把握に心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

〇 連絡帳を活用し利用団体との連絡を密にした。

〇 指図書には速やかに対応するよう心掛けた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市広幡学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市広幡町11番地13
施設規模	敷地面積：617.82 m ² 建物面積：499.09 m ²
指定管理者	名称：岡崎市広幡学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市広幡町11番地13 代表者：委員長 山本 真裕
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家 ワクワクお楽しみ会
実施内容	- クラウン★トム マジックショー - まねコンダンス - バルーンアート(おどろみ) } こども達で体験
実施回数	1回
参加人数(人)	72人 (こども：53人、おとな：19人)

(2) 事業実施に対する自己評価

昨年度も大好評だったクラウン★トムさんを招き、マジック・ダンス・バルーンアートを体験し楽しむ会としました。6年生児童とトムさんとの突然のコラボマジックや「まねコンダンス」も個性あふれる振付付けに盛り上がり、まさに「居あいの会」となり、保護者も含め、地域との関心と交流を深めることができました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	326	10,573	390	3,380	13,953

(2) 利用状況に対する自己評価

・こどもの安心かつ安全な遊び場として、本年度も多くの児童が来館した。
 ・利用団体の他に、地域の行事での利用もあり、多くの学区民に利用が広がった。

3 収支状況
(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000 ✓
	その他収入(B)	雑収入	6,625
収入 計 (A + B)			412,625 ✓
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	402,928 ✓
	(うち修繕費)	※精算項目	116,556 ✓
	その他(D)	当期剰余金等	9,697 ✓
支出 計 (C + D)			412,625 /
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・落留によるシキ室大時計の修理や経年劣化によるシキ室内の排煙窓ホーダー補修工事費用等を「修繕費」として充て、超過分は、他の支出内容を精査することにより、収支のバランスを図ることとできました。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・外庭清掃や館内の全床拭きを毎日実施し、清潔な環境作りに努めた。
- ・施設内には、利用の注意事項等を分かりやすい書面で掲示した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・こどもへは、今年度も引き続き「読みたい本」アンケートを実施し、結果を参考にし、本を購入した。
- ・利用団体とのノートやホワイトボード(予定表)の活用により、ニーズ把握を心がけた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・特別な苦情はなかった。
- ・日常的に利用団体とのノートやホワイトボード(予定表)、清掃や会議での意見交換を通して、コミュニケーションを図り、今後も適切な管理運営を心がけていく。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市上地学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市上地三丁目 32 番地 2
施設規模	敷地面積：1628.79 m ² 建物面積：499.62 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市上地学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市上地三丁目 32 番地 2 代表者：委員長 杉浦 正司
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	上地9区 秋のスタンプラリー
実施内容	大谷公園で防災倉庫の見学 こどもの家にて、ニュースホーツ（ファミリーバドミントン） や卓球、らく書きコーナーで楽しもう 市民ホールで体力測定
実施回数	1 回
参加人数（人）	109 人（こども：63人、おとな：46人）

(2) 事業実施に対する自己評価

「インフルエンザ」による学級閉鎖に加えて雨天の為、参加者は
 昨年の半数に止まったが、ニュースホーツへのチャレンジしたり景品を
 ケットしたりと多くの笑顔が見られた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数（日）	小 人 利用人数 （A）	大人利用		利用人数 合 計 （A）+（B）
			回数	人数（B）	
合 計	357	14,658	498	4,106	18,764

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として現場の指導員や小学校と
 連携を密にしたことで、多くの児童が来館した
 大人の利用については、地域に広く認知されており、今年も
 多くの学区住民の利用があった。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	6149
	収入 計 (A + B)		413,149
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	405,267
	(うち修繕費)	※精算項目	115,247
	その他(D)	当期剰余金等	7,882
	支出 計 (C + D)		413,149
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等、適切に費用を収支運営
 することができた。
 こどもたちの安全の為に、建具の修繕が必要になった為、修繕費と
 超過した為、他の支出を抑えて収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

施設の利用に関して、わかりやすく記した書面を作成し、掲示し、
 連絡ノートを作って意見があれば、記してもらった。
 使用後の清掃への協力を呼びかけ清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもに人気のゲームを購入したり、修繕したりして、
 遊ぶ道具も取りやすくしたり、置き場所を変えたり
 使いやすくした。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用者とのコミュニケーション用に用意した利用者ノートに
 書かれた意見を読み、改善できるところは、速やかに
 対応した。
 マナー、ルール違反の利用者には、事務長を通じて、連絡により
 理解していただけた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市本宿学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市本宿町字下三本松5番地1
施設規模	敷地面積：1164㎡ 建物面積：499.56㎡
指定管理者	名称：岡崎市本宿学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市本宿町字下三本松5番地1 代表者：委員長 青山 好夫
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	楽しく運動ふれあいレクリエーション3B体操
実施内容	・事務長挨拶 ・ダンス ・体操講師の先生による挨拶・バレー型の道具を使いオセロ合戦 ・準備体操・ビニールシートを使ってバレーボール
実施回数	1回
参加人数(人)	69人(こども：63人、おとな：6人)

(2) 事業実施に対する自己評価

参加者全員がふれあいレクリエーションを通じて繋がりを持った。又楽しい時間を過ごした。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	285	12,135	260	1,797	13,932

(2) 利用状況に対する自己評価

・安全な子供の遊び場として、小学校と連携を密にした事で、本年度も多くの児童が来館した。
・大人の利用については、地域の方に多く知られており、本年度も多くの学区住民の利用があった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入	5,280
	収入 計 (A + B)		409,280
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	402,318
	(うち修繕費)	※精算項目	110,850
	その他(D)	当期剰余金等	6,962
	支出 計 (C + D)		409,280
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

・施設の修理・消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営する事が出来た。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

・利用者みんなが気持ちよく利用できる様「来た時よりも美しく」を合言葉に使用後の清掃への協力を呼びかけて、清潔な環境作りに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・子供に人気の遊具を聞き取りして購入したり、遊具の整備に努めた。
・利用団体との会議を開催してニーズ・把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見には、改善できる範囲において速やかに対応した。
・利用団体との会議において苦情対応を行った。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市梅園学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市稲熊町四丁目 12 番地 1
施設規模	敷地面積：1440.25 m ² 建物面積：499.11 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市梅園学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市稲熊町四丁目 12 番地 1 代表者：委員長 受川 定幸
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	クリスマスお楽しみ会
実施内容	ダンス(さんぽ サルト) ドキンちゃん&ジャングルタイム ゲーム (①ボールの入れ ②棒っかみ ③輪投げ ④射的 ⑤サイコロころがし ⑥ドキンちゃん&ジャングル ⑦お皿にボールをとれよう ⑧ポイントアップチャレンジ)
実施回数	1 回
参加人数(人)	139人 (こども：116人、おとな：23人)

(2) 事業実施に対する自己評価

3回目の実施で 前回までの反省点の見直しをし 参加申し込みからゲームの進行までスムーズに行うことができた。
指導員 利用団体 地域の皆さまで協力して こどもたちを楽しませることができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	344	18,720	381	4,514	23,234

(2) 利用状況に対する自己評価

安全安心、楽しいこどもの憩いの場として指導員や小学校、学区各団体と連携を密にしたことで 多くの児童が来館し 楽しく遊ぶことができた。
大人の利用については地域に広く認知されており学区住民による利用が
多くあり、健康促進に貢献できた。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		408,000
	その他収入(B)	雑収入	53,530
	収入 計 (A + B)		461,530
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	418,859
	(うち修繕費)	※精算項目	82,396
	その他(D)	当期剰余金等	42,671
	支出 計 (C + D)		461,530
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- 施設の修理・消耗品の購入等に費用を充て収支運営が出来た。
- レクリエーション室の両側の扉に網戸が無く夜は虫等が入って来るので開けたままの活動だったが網戸を付け虫の侵入を防ぎ扉を開けての活動が出来た。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 利用団体、運営委員会、地域団体が協力し合い館内の清掃に取り組み清潔な環境作りに努めました。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- こどもや雑誌・メディア等から得た情報から遊具の購入や物づくりを遊ぶ場としての充実に向け、こども同士のふれあいが図れた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- 指導員と連携し利用団体からの意見には改善できる範囲に於いて速やかに対応しました。
- 女子トイレの換気ファンからの異音があり、速やかに対応しました。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市竜谷学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市桑谷町字1斗目3番地4
施設規模	敷地面積：2894.36㎡ 建物面積：499.18㎡
指定管理者	名称：岡崎市竜谷学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市桑谷町字一斗目3番地4 代表者：委員長 山本 英昭
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあいスポーツ鬼ごっこ
実施内容	子供会代表及びインストラクターの指導の下で児童と地域の人達と遊びやゲームの要素を共有させた鬼ごっこで交流・親睦を深める。 ・7人制2チームに分かれた対戦形式 ・相手陣営に有るトレジャー（宝）を獲得しポイントになる。
実施回数	1回
参加人数（人）	45人（こども：14人、おとな：31人）

(2) 事業実施に対する自己評価

- ・多くの子供会児童と保護者に加え、地域の人達と、インストラクター指導のもとスポーツ鬼ごっこを通じ子どもも大人も老若男女問わず活気あふれるイベントとなり健康推進・コミュニティ活動が和やかな雰囲気で開催出来た。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	598	4,921	327	2,104	7,025

(2) 利用状況に対する自己評価

- ・一年生の利用が多く安心安全な遊び場を提供する中でマナー・ルール等の徹底を行った。また、運営委員会・小学校との連携を密とし、昨年同様多くの学区住民にも利用された。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

項目	内訳	決算額 (円)
収入		
指定管理料収入 (A)		402,000
その他収入 (B)	雑収入	45,183
収入 計 (A+B)		447,183
支出		
直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	379,358
(うち修繕費)	※清算項目	87,736
その他 (D)	当期剰余金等	67,825
支出 計 (C+D)		447,183
差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- 定期的な各種点検や日常点検において、消耗品の購入や備品の調達・修理等適切に進め計画的に収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 備品不具合や共有スペースは、日々の清掃、消毒、点検実施を継続して行い利用者が安全安心に利用できる様な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- 利用団体に於いては、連絡ノートや留守電に対応し委員会と運営連携しニーズ把握を心掛けた。こどもに於いては、利用児童からの声にも耳を傾け節句毎の工作を工夫したり、文武両道を考慮した施策を取り入れ健全育成を行った。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- 連絡ノート、対話、留守電を通じ意見に対しきちんと対策対応が出来、スムーズな運営を行うことが出来た。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作北学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市森越町字山王 45 番地 1
施設規模	敷地面積：1196 m ² 建物面積：499.53 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市矢作北学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市森越町字山王 45 番地 1 代表者：委員長 中野 英二
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	矢北こどもの家 まつり 2025
実施内容	紙飛行機 飛び大会や簡単なゲーム大会 ・南マジックによるマジックショー
実施回数	1 回
参加人数 (人)	219 人 (こども：198 人、おとな：21 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

簡単なマジックには子どもたちも参加し、大いに興味を持ち喜んでいました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合 計	355	12,142	311	3,898	16,040

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や小学校と連携を密にしたことで、本年度も多くの児童が来館し、大きな事故や問題もなく利用できた。
大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入 前年度繰越金 貯金利息 社会福祉金	5,725 80 60,000
	収入 計 (A + B)		471,805
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	468,268
	(うち修繕費)	※精算項目	(95,700)
	その他(D)	当期剰余金等	3,537
	支出 計 (C + D)		471,805
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。
社会福祉金は子どもたちが楽しめる玩具や人気のコミックや絵本の購入にあて有意義に利用した。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう 使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。
施設利用に因る注意事項等をわかりやすく記した書面を作成した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子ども人気の遊具を聞き取りして購入したり工夫して自作したりするなど多種多様な遊具の整備に努めた。
利用団体との連絡ノートを設置し、会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し、利用者連絡ノートに記入された意見には改善できる範囲において速やかに対応した。
特別な苦情はなかったが、会議や連絡ノートにより利用者とのコミュニケーションを深めて、今後も苦情のないよう適正な管理運営を心掛けたい。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市男川学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市大平町字皿田 6 番地 2
施設規模	敷地面積：1051.69 m ² 建物面積：499.74 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市男川学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市大平町字皿田 6 番地 2 代表者：委員長 小林 勇
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	男川学区こどもの家ふれあい秋まつり
実施内容	・手品(マジックショー) ・紙飛行機飛ばし ・ビンゴゲーム ・ペットボトルホーリング
実施回数	1 回
参加人数(人)	88 人 (こども：78 人、おとな：10 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

こどもと大人のふれあいを通じて、世代を超えた地域のか繋がりをもつきっかけとなった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	337	24,433	424	4,203	28,636

(2) 利用状況に対する自己評価

大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	0
収入 計 (A + B)			407,000
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	407,000
	(うち修繕費)	※精算項目	156,096
	その他(D)	当期剰余金等	0
支出 計 (C + D)			407,000
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設、修繕、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

施設利用に関し、わかりやすく記した書面を作成した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体との会議を開催して、ニーズ把握を心がけた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用団体との会議を開き、

マナー、ルール違反の利用団体に対し注意をし、理解してもらった。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市六名学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市上六名三丁目3番地7
施設規模	敷地面積：885.61㎡ 建物面積：499.1㎡
指定管理者	名称：岡崎市六名学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市上六名三丁目3番地7 代表者：委員長 伊藤 公一
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	六名学区ファミリーフェス
実施内容	・六名小学校 ドッテビー・モルック・ニチレフ ・こどもの家 紙ひこうきを作って飛ばそう(3位まで賞品有り)・千本引き
実施回数	1回
参加人数(人)	121人(こども：75人、おとな：46人)

(2) 事業実施に対する自己評価

六名学区 社教、総代会、六名小PTA、こども会の方達と
協力しあい、児童もけがを恐る事もなく楽しく過ごす
事が出来た。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	307	12937	400	3328	16265

(2) 利用状況に対する自己評価

指導員・センサ・支援員の連携はもちろん、小学校や運営委員会との
連携も密にし、安心安全なこどもの遊び場と地域の方の
親睦や健康の増進を図る場として定着している。
みなさんの協力のおかげです。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	19,629
	収入 計 (A + B)		425,629
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	418,232
	(うち修繕費)	※精算項目	196,390
	その他(D)	当期剰余金等	7,397
	支出 計 (C + D)		425,629
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等適切に費用を
充て、収支運営する事が出来た。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

安全かつ心地良く利用して頂く事を心掛けホワイトボードに
スケジュールを明記・掲示し、又連絡ノートで利用団体からの
意見等を把握しスムーズに運営した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・こともに人気のシリーズ本や放課後ことも教室に必要な材料等
購入し、ことも達がより楽しめるよう工夫を凝らし遊具の充実、安全
に遊べるよう整備に努めた。
・利用団体登録申し込みは回らん板を利用し学区全体に告知する事で
スムーズに行こなえた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・指導員と利用者の連絡ノートに記入されている意見等改善できる
範囲において速やかに対応した。
・利用団体代表者会議や大掃除を開催して、マナー・ルール
の厳守をお願いした。
・今後も利用者とのコミュニケーションや指導員全員が問題点
を共有し適正な管理運営を心掛けたい。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市竜美丘学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市竜美東一丁目10番地1
施設の規模	敷地面積:1616.94㎡ 建物面積:499.4㎡
指定管理者	名称 岡崎市竜美丘学区こどもの家運営委員会 所在地 岡崎市竜美東一丁目10番地1 代表者 委員長 服部 朱美
指定期間	令和8年4月1日～令和12年3月31日

1 事業の実施状況

(1)実施状況

実施事業名	こどもの家ふれあいフェスティバル
実施内容	◆3B体操 ◆おしるこの振る舞い ◆牛乳パックで風車作り ◆お菓子配布
実施回数	1回
参加人員(人)	こども85人 大人29人 合計114人

(2)事業実施に対する自己評価

- 学区のこども会、PTA、老人会、婦人防災クラブ、総代会等のおとなの協力を得て、こども達とのふれあいを通じ世代を超えた地域のつながりと絆を生む良い機会であった。
- 学区のこどもの家に対する関心を高めるとともに、地域の人々への理解を深める

2 施設の利用状況

(1)利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	340	15,076	320	3,089	18,165

(2)利用状況に対する自己評価

- 安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や小学校と連携を密にしたことで本年度も多くの児童が来館した。
- 大人の利用も昨年度とほぼ同じレベルの利用で健康維持に活用されている。

8.3.31
8/31/24

3 収支状況

(1)収支状況

項目		内訳	決算額(円)
	前期繰越		△ 14,742
収入	指定管理料収入		406,000
	その他収入	竜美丘学区社教委員会より	15,000
	その他収入	利息	4
収入 計			406,262
支出	直接管理運営費	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	394,527
	(うち修繕費)	※清算項目	(86654)
	その他	当期剰余金等	11,735
支出 計			406,262
差引			

(2)収支状況に対する自己評価

備品の修理交換、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他の自己評価

(1)利用者へのサービスに対する自己評価

- 利用者が気持ちよく利用できるよう、使用後の清掃を周知し清潔な環境づくりに努めました。
- 施設利用に関し利用条件を記した書面を配布、周知いたしました

(2)利用者ニーズ把握に対する自己評価

- こどもに人気の書籍や遊具を聞き取りして購入したり、工夫して自作したりして多種多様な遊具等の整備に努めました。
- 利用団体の要望を聞き、ニーズ把握を心掛けました。

(3)苦情対応等に対する自己評価

- 指導員と連携し、利用者の意見には、改善できる範囲ですみやかに対応しました。
- マナー、ルール違反の利用者には、即時、注意警告し理解をしていただいた。
- 近隣への騒音対策として今年度も夜間利用を10～3月に限定いたしました。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市生平学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市生平町字鷺場 38 番地
施設規模	敷地面積：1379.33 m ² 建物面積：499.6 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市生平学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市生平町字鷺場 38 番地 代表者：委員長 北村 岩雄
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい レクリエーション大会
実施内容	こども会との協賛でこどもと大人のチームでドッチボール大会 ヒンパシオン玉リレー 運営委員長と指導員の似顔絵リレー 1ハーツ書いてレク室一周してバトンタッチ
実施回数	1 回
参加人数(人)	68 人 (こども：38人、おとな：30人)

(2) 事業実施に対する自己評価

こども会と地域の人の協力の元 昨年より大人の参加人数が増え
子ども達と地域の大人、指導員とふれあう事ができ楽しくゲームができた

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	286	4196	229	2139	6335

(2) 利用状況に対する自己評価

指導員間や小中学校との連携を密にしたことで、安全、安心なところ
遊べる場所として過すことかできた。

大人の利用についても地域に広く認知されており、多くの住民の利用
があった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入 (A)		402,000
	その他収入 (B)	雑収入	100,746
	収入 計 (A + B)		502,746
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	456,425
	(うち修繕費)	※精算項目	201,016
	その他 (D)	当期剰余金等	46,321
	支出 計 (C + D)		502,746
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

数年間懸案としていたレク室扉スッターと網レールの修繕と古く
なってきた児童が使用している図書室イス全て、事務室のイスの買い換えを今度は
出来た。これにより修繕費は大幅に超過したが、事故につながるリスクが失くなり

4 その他自己評価 適切な収支結果となった。

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

・利用者が気持ち良く利用できるよう、必要なそうじ用品を設置し、
清潔な環境作りに努めた。

・施設利用者からの要望等の常に聞けるように、連絡ノートを活用し対応した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・児童に人気のゲーム、本などを購入したり、遊具の点検、修理を行い
整備におめた。

・利用者からのニーズを把握し、必要な器具の充実を図った。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・団体利用ノートに記入された意見要望は運営委員会と共有し、速やか
に対応した。

・保護者からの意見、苦情があった時にはすぐに連絡を取り合い話し合いの場を
持つようにし、育成課への細かい報告をし問題を解決するのにも関わった。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作西学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市宇頭町字才六1番地5
施設規模	敷地面積：915 m ² 建物面積：499.4 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市矢作西学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市宇頭町字才六1番地5 代表者：委員長 櫻木 勝
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	矢作西小学校100周年学区祭
実施内容	・ eスポーツ（ボウリング） ・ ウォークラリー ・ トランポリン
実施回数	1 回
参加人数（人）	300 人（こども：200人、おとな：100人）

(2) 事業実施に対する自己評価

記念行事の一環でより多くの子供達、大人も参加され和気あいあいと楽しいひと時を過ごすことが出来た。特にウォークラリーでは子供と大人が一緒になって考え、行動し一体感がはぐくまれた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数（日）	小 人 利用人数 （A）	大人利用		利用人数 合 計 （A）＋（B）
			回数	人数（B）	
合 計	354	5,241	497	4,814	10,055

(2) 利用状況に対する自己評価

- ・ 現場の指導員の安全意識が高く、きめ細かな配慮で地域住民とのトラブル、子供達の怪我等も無く満足な1年であった。
- ・ 矢作西小学校100周年行事イベント会場になった事でより多くの人達に認知され次年度に期待がもたれ、満足の1年であった。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入	313
収入 計 (A + B)			405,313
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	394,029
	(うち修繕費)	※精算項目	(85,000)
	その他(D)	当期剰余金等	11,284
支出 計 (C + D)			405,313
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。
- ・金額の大きな修繕については計画性を持って対応できた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後および適宜な時期に清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。
- ・施設利用に関して、やって頂くことをわかりやすく記した案内板を作成した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・こどもに人気の遊具を聞き取りして購入した、壊れかけた遊具や設備は出来る範囲で修理するなどして安全に使用出来るように努めた。
- ・利用者ノートを活用して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・指導員と連携し、周辺住民及び利用者苦情はポスター掲示等で素早い対応を実施した。またその対策効果も維持出来るように継続的に点検を実施した。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市六ツ美中部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市下青野町字法京 54 番地
施設規模	敷地面積：1996 m ² 建物面積：499.2 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市六ツ美中部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市下青野町字法京 54 番地 代表者：委員長 宮本夏夫
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	いれあひ事業 (エリック ショー)
実施内容	カート、トランプエリック 等
実施回数	1 回 / 10月
参加人数 (人)	63 人 (こども：53人、おとな：10人)

(2) 事業実施に対する自己評価

今般も地域のタクの方にコ参加頂き、参加された方も皆土人喜ばれていました。昨年参加し、今年も参加した方も、内容も選んで楽しめたと言っていました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合 計	346	5587	505	4,477	10,064

(2) 利用状況に対する自己評価

今年度もタクのホに利用して頂き、地域のタクにもコ協力、コ理解を得ながら1年運営する事が出来ました。施設の精粹活動もホエラア土人のホで清潔な施設を保つ事が出来ました。

8.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入	7,047
	収入 計 (A + B)		411,047
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	411,047
	(うち修繕費)	※精算項目	117,786
	その他(D)	当期剰余金等	0
	支出 計 (C + D)		411,047
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

今年度も過不足無く、適切に会計処理を行えた。施設の老朽化が
酷く、修繕しなければならぬ部分が多くあり、来年度も引き続き
実行していく。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用される児童が楽しめる様に様々な遊具を常に提供出来た。壊れた
おもちゃ等もすぐに修繕し、いつ来ても児童に満足させる環境を整えた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

指導員と運営委員会が密に連絡を取り、利用者のニーズを細かく
把握する事が出来た。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と運営委員会で苦情のツル-ポライを作り、苦情が
入ったらすぐに共有し、速座に文書化するシステムに昨年度より
お陰で、今年度はほぼ苦情は無く、苦情になる前の段階で
解決する事がほとんどであった。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市六ツ美北部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市井内町字風見 54 番地
施設規模	敷地面積：1982 m ² 建物面積：499.88 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市六ツ美北部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市井内町字風見 54 番地 代表者：委員長 花田 健
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業 クリスマス会
実施内容	・12月17日(水) ・サンタ登場 バルーンショウ ・クリスマス会 参加者プレゼント
実施回数	1 回
参加人数(人)	92 人 (こども：79 人、おとな：13 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

- ・ピエロが登場し、バルーンショウは、子どもたちに好評であった。
 ・サンタの衣装を準備して、子どもたちにプレゼントをわたした。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	355	19,034	462	4,144	23,178

(2) 利用状況に対する自己評価

- 安全なこどもの遊び場として、指導員、育成センター、小学校と連携をとり活動すすめた。小人の利用人数は、昨年より増加している。大人の利用人数は少し減少しているが、多くの学区住民による利用があった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	5,642-
	収入 計 (A + B)		412,642-
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	412,148-
	(うち修繕費)	※精算項目	130,130-
	その他(D)	当期剰余金等	494
	支出 計 (C + D)		412,642-
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て、収支運営できた。
- ・ふれあい活動を12月に実施でき、クリスマス会の参加費にも支出した。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・こどもの家利用団体 グループラインを活用し、連絡等を周知できた。
- ・利用団体の食室内奉仕清掃は、年2回実施した。
- ・2月に利用団体の代表者会議を開き、利用者の要望等を聞いた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・こどもが活用できる遊具の購入計画を立て、多様な遊具の整備に努めた。
- ・利用団体との連絡は、利用者ノートとグループラインを活用した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・利用団体の使用マナーや使用後の清掃について、グループラインで連絡することができた。
- ・特別な苦情はなかったが、ライン等で連絡をとり苦情のない運営に努めた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市岡崎学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市針崎町字大坪 10 番地 7
施設規模	敷地面積：1396.17 m ² 建物面積：499.6 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市岡崎学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市針崎町字大坪 10 番地 7 代表者：委員長 加藤 政幸
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	七夕会 バルーンアート
実施内容	講師によるバルーンアート・デモンストレーション。 パフォーマンスで色々な形を作ってみせてくれる 参加費無しで遊びたい。バルーン作品。
実施回数	1 回
参加人数(人)	99 人 (こども：90 人、おとな：9 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

講師がビデオに扮して、子ども達にデモンストレーション。
パフォーマンスもしていたので、子ども達も楽しくすごせた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	352	10,472	361	3,058	13,530

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、現場の指導員と連携を密にしていたこと、
多くの児童が来館した。
大人数の利用については、本年度も多くの学区住民による利用があった。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000 /
	その他収入(B)	雑収入	17,506 /
	収入 計 (A + B)		423,506 /
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	412,494 /
	(うち修繕費)	※精算項目	97,500 /
	その他(D)	当期剰余金等	11,012 /
	支出 計 (C + D)		423,506 /
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- 施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営するつもりでされた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- 利用団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- 指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見には、改善できる範囲において速やかに対応した。
- 利用団体との会議を開催して、苦情対応を行った。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市連尺学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市城北町4番地1
施設規模	敷地面積：713.43 m ² 建物面積：499.3 m ²
指定管理者	名称：岡崎市連尺学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市城北町4番地1 代表者：委員長 斎藤 理彦
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	連尺おもしろフェスティバル
実施内容	連尺学区社会教育委員会共同で行うイベントで、学校とこどもの家とをめぐり、色紙や折り紙、紙飛行機、竹とんぼをこどもの家では紙工作や紙飛行機も作り、竹とんぼを飛ばして遊んだ。
実施回数	1回
参加人数(人)	250人(こども：150人、おとな100人)

(2) 事業実施に対する自己評価

初めての試みで、多くの団体に参加した為、閉館時間に混雑が生じた。こどもの家では、子ども達が、レク室の空をスペースに紙飛行機や竹とんぼを飛ばし、楽しく遊ぶことができた。来年も楽しく遊ぶ工夫をしていきたい。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	346	7740	335	3719	11,459

(2) 利用状況に対する自己評価

大きな問題やけがもなく、無事に一年間終えることができた。育成センター、学校との連携を密にし、安全で、楽しく遊ぶ場所となるように心がけた。

衛生、安全面に関して、情報収集を行い、利用者が安心に利用できるようにした。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	46,544
	収入 計 (A + B)		452,544
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	420,122
	(うち修繕費)	※精算項目	82,880
	その他(D)	当期剰余金等	32,422
	支出 計 (C + D)		452,544
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入は、ほぼ適切に充てることができた。
購入した物品は必ず指導員同志でチェックするようにした。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

倉庫内の管理を定期的に行い、清潔で利用しやすい環境
作りに努めた。遊ぶ場所を区切ったり、時間で交代したり、安全に
楽しく遊べるようにした。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

幅広い学年の児童の利用がある為、共通してわかりやすいルールを
作るように努めた。
団体向けのLINEの公式アカウント等で運営経費と利用団体とのやり取り
が楽になっている。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員全員が共通の認識をもって対応するようノートを利用し情報交換
をし、不明な点や心配事があれば速やかに育成課と指示をあわせて
解決するように努めた。
苦情があった際は、今後も真摯に対応していきたい。

令和7年度 事業報告書

公の施設名称	岡崎市山中学区こどもの家
施設の設置目的・役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市山綱町字天神2番地1
施設規模	敷地面積:1695.70㎡ 建物面積:499.33㎡
指定管理者	名称:岡崎市山中学区こどもの家運営委員会 所在地:岡崎市山綱町字天神2番地1 代表者:明保 芳和
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業: こどもの家祭りとクリスマス会
実施内容	1. じゃんけんゲーム大会(じゃんけん列車) 2. 紙コップリレー
実施回数	1 回
参加人数(人)	152 人 (こども: 131人、大人: 21人)

(2) 事業実施に対する自己評価

- 子ども会といっしょにクリスマス会を開催をしました。
子どもと来賓者も一緒になってじゃんけん列車や紙コップリレーのゲームを行い、子どもたちが元気いっぱい楽しんでいて良かったです。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数	小人	大人人数		利用人数合計
	(日)	利用人数(A)	回数	人数(B)	(A) + (B)
合 計	316	6,757	415	4,588	11,345

(2) 利用状況に対する自己評価

- 児童の一般利用が増え、遊びに工夫を加え、安全かつ楽しく遊ぶことができた。
- 利用団体も新規登録が増え、利用の決まりを守って協力的に施設利用ができた。

8.3.31
岡崎市

3 収支状況

(1) 収支状況

	項 目	内 訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)	岡崎市こども育成課より	105,000
	その他収入(B)	雑収入(令和6年度繰越金・利子)	59,820
収 入 計 (A + B)			464,820
支 出	直接管理運営費(C)	人件費・事務費・消耗品費 ふれあい事業費・修繕費	392,252
	(うち修繕費)	※精算項目	85,376
	その他(D)	当期余剰金等	72,568
支 出 計 (C + D)			464,820
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・ 事務用品・工作材料費など、適切に収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・ 玄関にレンタルマットで常に清潔を心掛けました。掲示物は、季節ごとに工夫を凝らし、楽しくできるよう環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・ 利用団体の会議を開催し、意見交換をする事ができた。
- ・ 子供たちの意見をよく聞くことを心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・ 利用児童の保護者からの質問に対して、丁寧に対応できた。
- ・ 利用団体の要望(祝日利用について)は、事務長と相談して解決することができた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市岩津学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市岩津町字東山 18 番地 4
施設規模	敷地面積：1057.77 m ² 建物面積：499.2 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市岩津学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市岩津町字東山 18 番地 4 代表者：委員長 岩瀬 正生
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	南マジックのまきピーさんによるマジックショー＆ビンゴ大会
実施内容	本から本物のハトが飛び出しそのハトがウサギに変わる(動物マジック) 〈子ども参加型マジック〉 首に用具を付け後ろから首に剣を刺すマジック・巨大鉄砲(科学マジック) 運営委員会事務長によるビンゴ大会・景品・参加賞あり
実施回数	/ 回
参加人数(人)	125人 (子ども:105人、おとな:20人)

(2) 事業実施に対する自己評価

本物のハトやウサギを使ったマジックに驚きと感動で子ども達は勿論大人も惹き込まれていた。空鉄砲では十数名の子どもが大きな拍手を両手でたたき空鉄砲から出たスモークがドーナツのようになってレク室の後方まで飛んでいくのを見て大喜びだった。恒例のビンゴ大会も景品を前に一喜一憂する子ども達で盛り上がった。帰りに参加賞を手にはにっこり顔で帰って行かされた子供達が印象的だった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	350	7,185	484	4,334	11,519

(2) 利用状況に対する自己評価

夏は今年気温が高くレク室で遊ぶ日が多かった。暑い時は扇風機の前でミストをかけてあげたり、水分補給をまめに取る様に声をかけた。大きな客室を使って金魚すくいならぬスーパースクールすくいをしても好評だった。

8,331

（1）收支状况

(2) 収支状況に対する自己評価

4 その他自己評価

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

(3) 苦情対応等に対する自己評価

2ページ/3 ページ

令和7年度 事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作南学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市大和町字西島61番地1
施設規模	敷地面積：1316㎡ 建物面積：499.02㎡
指定管理者	名 称：岡崎市矢作南学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市大和町字西島61番地1 代表者：委員長 棚木 朗
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい祭り
実施内容	・自転車シュミレーター ・ミニカーレース ・輪投げ
実施回数	1 回
参加人数(人)	131 人(こども：96人、おとな：35人)

(2) 事業実施に対する自己評価

学区こどもの家に対する関心を高めると共に、地域の人々への理解を深めることができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大 人 利 用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回 数	人数(B)	
合 計	348	14,913	412	5,731	20,644

(2) 利用状況に対する自己評価

大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。

8,331

3 収支状況

(1) 収支状況

項目		内訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	18,631
収入 計 (A + B)			425,631
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費 ふれあい事業費、修繕費	406,356
	(うち修繕費)	※精算項目	105,900
	その他(D)	当期剰余金等	19,275
支出 計 (C + D)			425,631
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもに人気の遊具を聞き取りして購入したり、工夫して自作するなど、多種多様な遊具の整備に努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

特別な苦情はなかったが、利用団体との会議や意見箱を設置し利用者とのコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう適切な管理運営を心掛けたい。

令和7年度事業報告書

公の施設名所	岡崎市六ツ美南部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市 中島東町3丁目8番地6
施設規模	敷地面積：1362.02㎡ 建築面積：499.8㎡
	名 称：岡崎市六ツ美南部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市中島東町三丁目8番地6 代表者：委員長 鈴木 伸欣
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施事業

実施事業名	七夕飾りを作ろう ・クリスマス会 ・節分会
	1.あいさつ・説明 2.季節にちなんだ行事活動 3.地域の方と一緒にゲームを楽しむ 4.記念撮影・あいさつ
実施回数	3回
参加人数(人)	~~214人~~ (こども：182人、おとな： ~~32人~~)

(2) 事業実施に対する自己評価

七夕・クリスマス会・節分と季節の行事を地域の方々と共に楽しむことができた。特にクリスマス会や節分会では地域の方々がサンタクロースやトナカイ・鬼などに扮し会が盛り上がった。又、クイズやゲームなどもいっしょに行い世代間交流もできた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	347	9,769	482	5,089	14,858

(2) 利用状況に対する自己評価

新型コロナウイルス感染継続に加え冬季にはインフルエンザが流行した。不特定多数の方が利用する施設であるため、できる限りの感染症対策を引続き行ってきて適切な対応ができた。

8.3.3

3 収支状況

(1) 収支状況

	項 目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入 (A)		406,000
	その他収入 (B)	前年度繰越金・雑収入	71,128
	収 入 計 (A + B)		477,128
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	422,883
	(うち修繕費)	※清算項目 (Cの内数)	(104,119)
	その他 (D)	当期余剰金	54,245
	支 出 計 (C + D)		477,128
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の内外の改善、故障・破損修理・消耗品の購入に費用を充て
収支運営することが出来た。本年度は修繕費が超過したが、
他の支出内容を精査することにより収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ
清潔な環境づくりに努めた

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

例年どおり、連絡ノートを利用団体に用意し活用していただだけ、利用者のニーズの
把握に引続き務めた結果、安全対策・使いやすさ等の改善に結び付けることができた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し連絡ノートを通じて記入された意見には改善できる範囲において
速やかに対応した。
マナー・ルール違反の利用者には注意を行い理解していただいた。
会議やノートにより利用者とコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう
適正な管理運営を心掛けたい。

令和 7 年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市北野学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市橋目町字屋下 3 番地 1
施設規模	敷地面積：1512㎡ 建物面積：499.75㎡
指定管理者	名 称：岡崎市北野学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市橋目町字屋下 3 番地 1 代表者：委員長 保田 和幸
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	北野学区こどもの家ふれあいあい事業
実施内容	外部から講師を招きマジックショーを実施し、参加者全員で鑑賞した、その後、バルーンアートに参加者全員で作成し飛ばして遊んだ。
実施回数	1 回
参加人数 (人)	91 人 (こども：61 人、おとな：30 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

予定人数を大幅に超えた参加者があり、保護者も多く参加し、楽しく過ごす時間を持つことができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	353	17,734	524	5,368	23,102

(2) 利用状況に対する自己評価

安心安全な遊び場として、地域や学校等と連携を密にしたことにより、前年度に比べ多くのこどもたちが来館した。大人の利用については、地域に広く認知されており多くの住民が利用した。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	そのほか収入(B)	雑収入	5,134
収入 計 (A+B)			411,134
支出	直接管理費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	410,207
	(うち修繕費)	※精算項目	115,500
	その他(D)	当期剰余金等	927
支出 計 (C+D)			411,134
差引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の老朽化が進み、計画的に修繕を進めてきたが、本年度も前年度に引き続き体育館内部の板壁の修繕に当初予算より超過したが、事務費、消耗品等の支出を抑制することによって運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

年2回の大掃除や利用後の清掃などをお願いすることで清潔な環境づくりを努めたことで、利用者も気持ちよく活動できた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもが希望し人気のあるボール、遊具などを補充、購入することで、活発に遊び、友達の輪が広がり、利用者の増加につながった。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用者からの苦情はなく、適正な管理運営がなされた、利用ノートにコメントを記入していただき、改善できるものに関しては、すみやかに対応した。

新規利用団体の申し込みに際し、他団体との利用時間などの調整を図り、できるだけ多くの利用が図られるように調整をした。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市根石学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市欠町字石ヶ崎 50 番地
施設規模	敷地面積：1297.98 m ² 建物面積：499.43 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市根石学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市欠町字石ヶ崎 50 番地 代表者：委員長 高橋 宏美
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	2025紙ひこうき大会（ふれあい事業）
実施内容	運営委員会と近藤講師による、紙ひこうきの製作および投てき指導。飛距離を競うメダル表彰の実施。
実施回数	1 回
参加人数（人）	51 人（こども：42 人、おとな：9 人）

(2) 事業実施に対する自己評価

こども、大人総勢51名が製作から飛行までの一連の体験を通じ、紙ひこうきの魅力を広く周知。またブービー賞や一位、六位、一八位など当日日付のメダル表彰を行い、参加者が一体となる大会に盛り上げることができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数（日）	小 人 利用人数 （A）	大人利用		利用人数 合 計 （A）+（B）
			回数	人数（B）	
合 計	345	8400	448	5165	13565

(2) 利用状況に対する自己評価

7年度子どもの利用は昨年比600人増だが、この5年間では2.8倍に増加。施設としての受け入れ能力が限界に近づいている（飽和状態）。指導員が安全確保だけで業務が完結してしまい、放課後子ども教室の「楽しさ」「創造性」を提供する場が、「怪我をさせない」「トラブルをさけ静かにさせる」といった、消去法的な管理に終始せざるを得ない。

大人の利用は1.8倍に増えたが、4年度から5000人台で推移（飽和状態？）

8,331

施設の利用形態は5年度から逆転して、大人(5119人)から子ども(8397人)にフトしてきた。(7年度)

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入、前期繰越金	77,579
	収入 計 (A + B)		481,579
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	438,528
	(うち修繕費)	※精算項目	86,350
	その他(D)	当期剰余金等	43,051
	支出 計 (C + D)		481,579
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

物価高騰により各費用の運用が厳しい中、限られた予算を最大限活用し、子どもたちが安心、安全かつ楽しく過ごせる居場所づくりに注力した。

消耗品費、事務費 ふれあい事業費は購入先の厳選や在庫管理に努め、機器のメンテナンス老朽化した備品の更新を適切に執行した。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

子どもたちの放課後が楽しく過ごせるように、季節感のある装飾や施設の清潔感を維持する工夫を徹底した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

送迎時のコミュニケーションを通して、潜在的な利用者ニーズの把握に注力した。

事務費、消耗品費の効率的な配分に活かし、子どもたちが喜ぶ装飾や清潔な環境づくりを実践した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

「迅速・誠実」を対応の基本としてきた。

年間を通して大事に至るような事故、クレームなどは発生しなかった。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市緑丘学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市美合町字下長根 28 番地
施設規模	敷地面積：2091 m ² 建物面積：499.01 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市緑丘学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市美合町字下長根 28 番地 代表者：委員長 島本 孝雄
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家 ふゆあいイベント
実施内容	スポーツウェルネス吹矢の体験 公認指導員の柴田トニオ様はじめ6名の指導員をお招きして スポーツウェルネス吹矢の体験会を開催した
実施回数	1 回
参加人数(人)	53 人 (こども：23 人、おとな：30 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

学区こどもの家に対する関心を高めると共に、地域の人々への理解を深めることができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	357	~~10,467~~ 10,467	654	6,212	16,679

(2) 利用状況に対する自己評価

夏の暑さでレク室が35℃を超えることが例年と比べて非常に多いため利用者が少し減ったと考えられるが、大人の利用及び多くの学区住民の利用があった。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	41,649 ~~20,131~~
	収入 計 (A + B)		447,649 ~~426,131~~
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	440,579
	(うち修繕費)	※精算項目	191,284
	その他(D)	当期剰余金等	7,070
	支出 計 (C + D)		447,649
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- 本年度は、経年劣化による施設・設備の修繕及び購入で修繕費が超過したが、消耗品の購入等は支障なく適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 来館した児童達が楽しく過ごせるように、行事等に合わせた作品を制作したり、一緒に作りたりして、温かな雰囲気を出してきた。(管理指導員)
- レク室倉庫の整理整頓、モップの洗濯等を適宜励行し清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- 児童が遊びたいと願うスポーツには極力受け入れ、場所割りやルールを話し合っ
て決めて対応している。(管理指導員)
- 利用団体の要望等を把握するため、利用者ノートを設置したり、代表者会議を
開催したりしている。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- 来館児童及び保護者からの苦情に関しては速やかに事実関係を精査し適宜
対応するよう努めた。(管理指導員)
- 利用者ノート、代表者会議での要望や苦情に関しては利用者とのコミュニ
ケーションを密にして即刻対策を取るように努めている。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市愛宕学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市伊賀町字地藏ケ入 34 番地 1
施設規模	敷地面積：1566.71 m ² 建物面積：499.67 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市愛宕学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市伊賀町字地藏ケ入 34 番地 1 代表者：委員長 鍋田 紘一郎
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業「こどもの家まつり」
実施内容	・トムさんのバルーンアート＆マジックショーの実演 ・バルーンアート作り ・風船砲はッレ、全員でダンス
実施回数	1 回
参加人数（人）	126 人（こども：112人、おとな：14人）

(2) 事業実施に対する自己評価

前もって参加申し込みをしてもらったため、人数の把握ができて準備がスムーズにできた。
当日は、クラウトムさんの手品を見たり、一緒にバルーンアートを作ったり、ダンスをげたり、とても
楽しい時間を過ごすことができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数（日）	小 人 利用人数 （A）	大人利用		利用人数 合 計 （A）+（B）
			回数	人数（B）	
合 計	345	5023	261	2151	7,174

(2) 利用状況に対する自己評価

1年生から6年生まで多くの児童が来館した。
レク室での遊びが人気なため、コート利用を時間で区切って安全に利用できるように努めた。
常に利用状況がわかる様に玄関のボードを使うなどして、安心安全な利用ができるように努めた。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		403,000
	その他収入(B)	雑収入	15,485
	収入 計 (A + B)		418,485
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	387,506
	(うち修繕費)	※精算項目	(108,700)
	その他(D)	当期剰余金等	30,979
	支出 計 (C + D)		418,485
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

図書室の窓の開閉に不便を感じたため戸車の交換を行い不便も解消した。
感染症対策のためにも、しばらくの間実行できなかった図書室、事務室のエアコンクリーニングを行なった。他の対策と共に館内の環境を整えることができた。業務用掃除機のコンセントの損傷のため安全安心に使用するため買い換えた。施設の安全に費用を充てることかでき、消耗品の購入を含め収支運営することかできた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

安心安全に心地よく利用していたくために、器具の消毒、点検を行い清潔な環境を作ることを心掛けた。
却間のボードや書面を使い利用団体との連絡が密になる様に努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

季節に合ったテーマや、こども達が興味を持ちそうな物を準備し放課後子いも教室を行うことができた。
代表者会議を通して、利用団体利用者の意見を聞き、ニーズも把握し対応した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

今年度も特別な苦情はなかったが、利用者ノートに記入された事柄については、指導員間で共有し速やかに対応した。
利用者の保護者からの問い合わせ等も指導員間で意見交換し適切な環境づくりを心掛けた。
今後も利用者とのコミュニケーションを密にして、マナールール等適切な環境、適正な管理運営を心掛けたい。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市常磐東学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市米河内町字登り 42 番地 2
施設規模	敷地面積：1788.48 m ² 建物面積：499.81 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市常磐東学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市米河内町字登り 42 番地 2 代表者：委員長 水野 雅夫
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ジェルキャンドル作りに挑戦しよう
実施内容	自由にジェルキャンドルに飾りをつけ 自分だけのステキなジェルキャンドルを作る
実施回数	1 回
参加人数(人)	40 人 (こども：33 人、おとな：7 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

参加者がとても楽しんでジェルキャンドル作りが経験できた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	353	4179	281	1310	5489

(2) 利用状況に対する自己評価

安全な子どもの遊び場として 指導員や小学校と連携を強めていることで
74人の児童が来館した。
大人の利用は今まで通り利用している。

8.3.34

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		403,000
	その他収入(B)	雑収入	2346
	収入 計 (A + B)		405346
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	404,700
	(うち修繕費)	※精算項目	9,000
	その他(D)	当期剰余金等	646
	支出 計 (C + D)		405346
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- 施設の修理 消耗品の購入等に適切に費用を充て
収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 利用者 みんなが気持ちよく利用できるよう 使用後の適宜な
清掃への協力を呼びかけ 清潔な環境づくりを努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- こどもに人気の遊具を購入したり 工夫して自作したりするこ
遊具の整備に努め こどもたちが楽しめるよう心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- 指導員と連携し 利用者ノートに記入された意見には
改善できる範囲において 速やかに対応した。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市常盤学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市滝町字入ノ谷3番地10
施設規模	敷地面積：1125.14㎡ 建物面積：499.9㎡
指定管理者	名 称：岡崎市常盤学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市滝町字入ノ谷3番地10 代表者：委員代表 中根 茂
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家お楽しみ会
実施内容	令和7年12月9日(火)～11日 ふれあい事業実施 「まつぽっくりでクリスマスツリー作製」
実施回数	計 1 回
参加人数(人)	18 人 (こども：15人、おとな：3人)

(2) 事業実施に対する自己評価

感染症防止など健康・安全に配慮しつつ 実施することができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	332	3063	478	4011	7074

(2) 利用状況に対する自己評価

感染症防止など健康・安全に配慮しつつ 施設を利用いただいている。子どもたちは下校後、遊具を使ったり、子ども同士でボール遊びをしたりしてのびのびと利用することができた。また大人の利用団体者も規則を守り、特に事故もなく 有意義に利用することができた。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入 (A)		404,000
	その他収入(B)	繰越金 8357, 利息73	8,430
収入 計(A+B)			412,430
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	399,077
	(うち修繕費)	※精算項目	106,084
	その他(D)	当期剰余金等	13,353
支出 計(C+D)			412,430
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

感染症防止などに留意しつつ、利用者の要望・意見にそれぞれ対応することができた。

また 収支も間違いなく適切に処理することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用団体代表者会議は感染防止などに配慮しつつ、利用規則確認・連絡お願い事項の周知等 徹底することができた。

連絡ノートは常設しており、利用者が気付いたことは都度記入いただいております。指摘内容に速やかに対応することができた。相互理解のため今後とも継続していきたい。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者の要望内容は随時現物の確認等を行い、速やかに対応回答することができた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

連絡ノートを設置し、常に問題点を把握するように心がけ、その都度 利用者に速やかに情報を提供することができた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市細川学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市細川町字長原111番地1
施設規模	敷地面積：1434.2㎡ 建物面積：499.58㎡
指定管理者	名 称：岡崎市細川学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市細川町字長原111番地1 代表者：委員長 近藤 勝男
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	かがくであそぼう
実施内容	4つの班に分かれブース毎で実施 されている実験に参加。楽しくかがく に対する理解を深められた。
実施回数	1 回
参加人数(人)	101人(こども：88人、大人：13人)

(2) 事業実施に対する自己評価

かがくの実験を通じてこどもの家に対する関心を高めるきっかけになった。
運営委員長、事務長、センター支援、でスムーズに進行することができた。

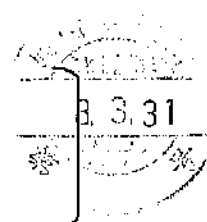
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	292	12,019	432	3,679	15,698

(2) 利用状況に対する自己評価

安全な遊び場所として、保護者に認識していただいております。今年度も多くの児童が来館。
連携を密にし、子供たちが安全に過ごせるように指導したい。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入 (B)	雑収入	28,194
収入 計 (A+B)			434,194
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	400,351
	(うち修繕費)	※精算項目	83,980
	その他 (D)	当期剰余金等	33,843
支出 計 (C+D)			434,194
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品購入等に適切に費用を充て収支運営することが出来た。
古くなった本棚、危ない一輪車ラック等々修繕費を超過したが、他の支出内容を精査
する事により収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

施設利用に関してわかりやすく書面にし、理解をお願いした。
使用後の清掃の適宜な協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもの遊びを見て、必要とする遊具を購入し、半年を選ばずに遊ぶことが
出来るようなものを選んだ。
利用団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

伝言メモに記入された意見や利用団体との会議での要望には、改善できる範囲において
速やかに対応した。マナー、ルールなど利用者には理解していただいた。
伝言メモにより利用者とのコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう適正な管
理運営を心がけたい

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市小豆坂学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市戸崎町字藤挾 13 番地 41
施設規模	敷地面積：1044 m ² 建物面積：499.21 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市小豆坂学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市戸崎町字藤挾 13 番地 41 代表者：委員長 山本 幹彦
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	小豆坂ふれあいフェス
実施内容	秋祭り(ゲーム)輪投げ、ミニゴルフ、ターゲット、水風船、スマートボール (販売)雑貨品、折り紙ケーキ等 各ゲームコーナーをチーム対抗で回り得点を競いながら遊んだ またゲームの待ち時間には引換チケットを使って手作り雑貨や 折り紙で作ったケーキなどの買い物体験も楽しんだ。
実施回数	1 回
参加人数(人)	61 人 (こども：49人、おとな：12人)

(2) 事業実施に対する自己評価

秋祭りに使うゲームや販売品をこども達と共に作成し作品を作る上での工夫や作る楽しさを学ぶことができた。この事業をきっかけに学区こどもの家を知ってもらう機会となり、こども達の来館人数の増加を期待したい。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	363	10379	580	5881	16260

(2) 利用状況に対する自己評価

指導員間及び育成センター 支援員やアルバイトと連携を密にしたことで安心、安全なこどもの遊び場として多くの児童が来館した。
大人の利用については、地域に広く認知されており多くの学区住民による利用があった。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	21,871
	収入 計 (A + B)		427,871
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	408,828
	(うち修繕費)	※精算項目	(85,596)
	その他(D)	当期剰余金等	18,043
	支出 計 (C + D)		427,871
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

施設内を日常的に消毒を行うと共にインフルエンザの流行期には
感染拡大防止を意識し対応を行い、利用者が安心して過ごせる環境づくりに
努めることができた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもに聞き取りをしてリクエスト玩具を購入したり放課後こども教室に、
必要な材料を購入したことなどにより楽しい環境づくりを心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見には改善できる範囲において、
速やかに対応した。
利用者とのコミュニケーションを密にして今後も適正な運営管理を
心掛けていきたい。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入 前年度繰越金	86,814
収入 計 (A + B)			491,814
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	390,824
	(うち修繕費)	※精算項目	109,870
	その他(D)	当期剰余金等	50,558
支出 計 (C + D)			441,382
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

収支状況は、指定管理料収入の増減と、支出の増減が、収支の増減に大きく影響している。①例として、指定管理料収入の増減は、指定管理料収入の増減に大きく影響している。②例として、支出の増減は、支出の増減に大きく影響している。③例として、雑収入の増減は、雑収入の増減に大きく影響している。④例として、前年度繰越金の増減は、前年度繰越金の増減に大きく影響している。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

毎日、指定管理料収入の増減の中で、指定管理料収入の増減が、指定管理料収入の増減に大きく影響している。①例として、指定管理料収入の増減は、指定管理料収入の増減に大きく影響している。②例として、支出の増減は、支出の増減に大きく影響している。③例として、雑収入の増減は、雑収入の増減に大きく影響している。④例として、前年度繰越金の増減は、前年度繰越金の増減に大きく影響している。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者ニーズの把握は、指定管理料収入の増減と、支出の増減が、収支の増減に大きく影響している。①例として、指定管理料収入の増減は、指定管理料収入の増減に大きく影響している。②例として、支出の増減は、支出の増減に大きく影響している。③例として、雑収入の増減は、雑収入の増減に大きく影響している。④例として、前年度繰越金の増減は、前年度繰越金の増減に大きく影響している。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

苦情対応等は、指定管理料収入の増減と、支出の増減が、収支の増減に大きく影響している。①例として、指定管理料収入の増減は、指定管理料収入の増減に大きく影響している。②例として、支出の増減は、支出の増減に大きく影響している。③例として、雑収入の増減は、雑収入の増減に大きく影響している。④例として、前年度繰越金の増減は、前年度繰越金の増減に大きく影響している。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市羽根学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市羽根町字池下5番地1
施設規模	敷地面積：1148㎡ 建物面積：499.78㎡
指定管理者	名称：岡崎市羽根学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市羽根町字池下5番地1 代表者：委員長 関 浩
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	放課後子ども教室
実施内容	チーム対抗ゲーム（流しそうめん・靴下み・フリカ） 読み聞かせ
実施回数	1回
参加人数（人）	72人（こども：62人、おとな：10人）

(2) 事業実施に対する自己評価

チーム対抗ゲームでは、ルールを守ってしっかり自分のチームを応援する姿が見られました。
当日は、ミックスの撮影もあり、楽しい様子が撮れました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数（日）	小 人 利用人数 （A）	大人利用		利用人数 合 計 （A）+（B）
			回数	人数（B）	
合 計	559	17,464	521	4764	22,228

(2) 利用状況に対する自己評価

かばく下校の児童の増加により本年度も多くの児童が施設を利用したが、冷暖房の設備が図書室しかないので、図書室の隅に集って座りこんでいる姿が多く見られるのは残念だ。
大人の利用は、団体での話し合いでスムーズな利用ができた。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	8,504
	収入 計 (A + B)		415,504
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	386,406
	(うち修繕費)	※精算項目	(206,480)
	その他(D)	当期剰余金等	29,098
	支出 計 (C + D)		415,504
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

劣化している物品が多く応急処置ではまにあわず、新品購入に
なっていました。

猛暑のためレクリエーション室が利用できない日が続くので室内で使用
するおもちゃの購入に消耗品費と充て子ども達の有意義な時間を少し作れた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

会議での決定事項は、入口の目のつきやすい場所に貼り紙をし、連絡がきりと
伝わるように努めた。

使用後の整理整頓、道具は元の場所へもどすことの協力をお願いし、清潔かつ
安全な施設にするために協力を呼びかけた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体、地元議員社教、を召集し、AEDの講習会を開催した。
実際にAEDを使用し、疑似体験をすることで、もしもの場合にどう動い
たらいいのやを学ぶことができた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

同じ曜日、時間帯を希望する利用団体からの長年の苦情に対し、
話し合いをしていただくと場を設けることでスムーズな計画、運営が
できた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市藤川学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市藤川町字一里山北54番地
施設規模	敷地面積: 1269.12㎡ 建物面積: 499.7㎡
指定管理者	名 称: 岡崎市藤川学区こどもの家運営委員会 所在地: 岡崎市藤川町字一里山北54番地 代表者: 委員長 本間 徹
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家交流会 手づくり ワークショップ
実施内容	①手づくり工作 割ばし鉄砲、バルーンアート、くるみボタンアクセサリー、万華鏡他手づくり ②子ども向け防災体験 水消火器の体験、防火服着用、消防車乗用体験
実施回数	1 回
参加人数(人)	168 人 (こども: 77 人、おとな: 91 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

子供と大人のふれあいを通じて、世代を超えた地域の繋がりを生むきっかけとなった。
学区こどもの家に対する関心を高めると共に、地域の人々への理解を深めることができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合 計	343	13,491	334	2,321	15,812

(2) 利用状況に対する自己評価

- ・安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や小学校と連携を密にしたことで本年度も多くの児童が来館した。
- ・大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。

8. 3. 31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	令和5年度繰越金、利息	3,386
収入 計 (A+B)			408,386
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	403,260
	(うち修繕費)	※精算項目	82,300
	その他(D)	当期剰余金	5,126
支出 計 (C+D)			408,386
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

本年度は施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・子ども達に聞き取りをして、必要な遊具の整備に努め、利用者に気持ち良く施設を利用してもらうことができた。
- ・利用者団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

特別な苦情はなかったが、利用者とのコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう適正な管理運営を心掛けたい。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市常磐南学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市田口町字岩本1番地1
施設規模	敷地面積：1390.73㎡ 建物面積：499.8㎡
指定管理者	名 称：岡崎市常磐南学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市田口町字岩本1番地1 代表者：委員長：柴田 和夫
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	みんなでゲーム
実施内容	① 大玉ころがし ② 輪っか運び(足から足へ) ③ キャタピラリレー
実施回数	1回
参加人数(人)	86人(こども：73人、おとな：13人)

(2) 事業実施に対する自己評価

運営委員会・指導員が準備の段階から協力し合いゲーム進行と片付けまでスムーズに実施出来た。
こどもたちも盛り上がり笑顔がみれてとても良かった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	338	5961	334	2696	8657

(2) 利用状況に対する自己評価

平日はほぼわはん下校の児童が利用を示めている。長時間いる子が多く自分たちで遊びの工夫をしながらか仲良く遊んでいる。出来るだけこどもたちが自由にかつ安全に遊べるように見守ってきたと思う。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入	49,796
	収入 計 (A + B)		453,796
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	438,096
	(うち修繕費)	※精算項目	83,337
	その他(D)	当期剰余金等	15,700
	支出 計 (C + D)		453,796
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

ブライドが基礎壊れていて修繕費は4月の段階でほぼ決まっていた。
ホールの扇風機の設置も、かばん下校の児童が多い為、暑い夏季を少しでも涼しく過ごしてもらおうと早目に設置が出来良かったと思う

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者が利用しやすい環境をと、備品・消耗品を充実させた。
また施設の利用に関して書面・ノートに書くなどして理解して頂けたと思う。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもたちや利用者の声に耳を傾け出来るだけ楽しく遊べるよう
又、利用出来るよう管理に務めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

こども同士の遊びの中でのけんか等があり出来る限りこども達から
目を離さないよう見守った。
又、利用団体にマナー・ルールを守っていたらという協力をお願いした。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市奥殿学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市奥殿町字石飛 111 番地
施設規模	敷地面積：1214.24 m ² 建物面積：499.8 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市奥殿学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市奥殿町字石飛 111 番地 代表者：委員長 鈴木 俊之
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	①しゃぼん玉おたのしみ会、 ②学ぼう防災
実施内容	①家でしゃぼん玉遊び 室内で、大玉しゃぼん玉の中に子どもが入る実演 ②ダンボールベッド作り 量りレンズメガネを使用し、疑似煙道体験
実施回数	2 回 ①5月14日(木) ②10月24日(金)
参加人数(人)	101人 (子ども：73人、おとな：28人)

(2) 事業実施に対する自己評価

2回行ったが、楽しく遊べる内容、災害や火事があった時の内容とそれぞれ異なっていたので、子ども達にも、いい経験をさせてあげることができたのはよかった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	338	7166	368	1954	9120

(2) 利用状況に対する自己評価

団体利用者からの苦情はなかったが、連絡ノートを利用してコミュニケーションをとることによって、不平、不満を持たれることはなかったと思う。

平日は、20名程の低学年が、かぼん下校し、4年生以上の高学年は数名と少ない。レクリエーション室でのびのび遊ぶ児童に目が届きやすく安心安全に見守ることができた。8.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		403,000
	その他収入(B)	雑収入	3,112
収入 計 (A + B)			406,112
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	389,754
	(うち修繕費)	※精算項目	84,150
	その他(D)	当期剰余金等	16,358
支出 計 (C + D)			406,112
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

レ7室網戸の破れ修繕と、外壁換気扇通気口に、すずめ蜂の巣を作られないように、網を張ったことにより、修繕費予算を少し越えてはしたが、他の支出内容を精査することで収支均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

かぼん下校児童の利用予定表を、前月に保護者に配布をし、記入して提出していただくことで、児童の所在が明確になったが、一方、欠席連絡が定着していないため、引き続き声かけの必要がある。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子ども達の会話を聞いたり、個々の意見に耳を傾け利用者全員で楽しめる工夫をし、必要と思う本は購入を考え、道具など安全に楽しめるよう、指導員全員で整備に努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用者からの苦情は特になかったが、常にそらなうないうち要望があれば直接聞き、コミュニケーションを取り、運営委員長、事務長に相談をし、団体利用者連絡ノートで返事をし、苦情のないよう適切な対応を心がけた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市大門学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市藪田二丁目8番地7
施設規模	敷地面積：1132 m ² 建物面積：499.65 m ²
指定管理者	名称：岡崎市大門学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市藪田二丁目8番地7 代表者：委員長 天野 正和
指定期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	大門学区ふれあいフェスティバル
実施内容	地域住民と学区こども会とふれあい活動 こども達と着ぐるみの方々とマジックショーの鑑賞など 実際にマジックに参加する
実施回数	1回
参加人数(人)	205人 (こども：240人、おとな：65人)

(2) 事業実施に対する自己評価

外部からエンターティナーを招き催し物を開くのは2回目の試みですが、こども会役員の方々の事前準備がしっかりなされており滞りなく進行することが出来た。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	255	22261	589	6255	28616

(2) 利用状況に対する自己評価

こどもたちの一般利用・育成センター利用がほとんど下校利用とも大変多く、利用団体も毎日利用があり健康づくりに寄与している。新しく利用希望の方を入れない程度なので、入れなくなるにどういったら8/31日かを運営委員長・会計・利用団体と検討した。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		408,000
	その他収入(B)	雑収入	229,794
収入 計 (A + B)			637,794
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	496,579
	(うち修繕費)	※精算項目	81,300
	その他(D)	当期剰余金等	141,215
支出 計 (C + D)			637,794
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

必要な施設の修理、消耗品の購入などが適切にできた。
一部利用者の購入要求に対して適切な対応ができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者が気持ちよく利用出来る様、使用後の清掃・片付けへの協力の呼びかけに努めた。
利用者どうしの交流として例年通り一斉清掃活動ができ、今後の協力への呼びかけができた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

新規利用申し込み者に対して、現利用者(団体)との会議を開催して、今後のあり方を考える機会をもうけることができた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

学区運営委員会と指導員との共通認識を計り、適切に対応できた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作東学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市矢作町字切戸20番地1
施設規模	敷地面積；1239.09㎡ 建物面積；499.26㎡
指定管理者	名 称；岡崎市矢作東学区こどもの家運営委員会 所在地；岡崎市矢作町字切戸20番地1 代表者；委員長 長友泰朗
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業 「ターゲットを狙えゲーム」
実施内容	各学年ラインの所に立ち、輪投げ3本を立てているターゲット狙い入れる ゲームに参加した全員に参加賞、的に入ったら+景品をGet
実施回数	1 回
参加人数（人）	446人 こども；300人、おとな；96人（幼児50人）

(2) 事業実施に対する自己評価

運営委員会をはじめ地域の各団体さんと一緒に活動でき、より一層の理解を得られたと思います。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	344	12,427	459	4,095	16,522

(2) 利用状況に対する自己評価

学校、保護者とともに連携を密にし安心・安全なこどもの家の運営管理が出来き、利用団体さんとも2回／年の定期清掃等を実施し信頼関係も向上した。指導員間においてもしっかりと情報共有が出来ているため安心して勤務ができました。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項 目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		¥404,000
	その他収入(B)	雑収入 (前年度繰り越し金)	¥11,454
収入 計 (A+B)			¥415,454
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	¥408,689
	(うち修繕費)	*精算項目	¥88,165
	その他(D)	当期剰余金等 (次年度繰り越し金)	¥6,765
支出 計 (C+D)			¥415,454
差 引			¥0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修繕や遊具の補修など適切に指定管理料を充てることができました。本棚、水筒置き場等を新たに設置し見た目も使いやすさも向上したとおもわれます。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

遊具、おもちゃ等の置き場や置き方を子ども目線に工夫したことにより取り出し、片付けがわかりやすく簡単にできるようになったと
思われます。倉庫内の整理整頓は継続中です。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

日常的に子ども達の遊びを見守る中で怪我が少なく人気のあるボールやコミック本の補充を実施しました。
利用団体との連絡はノート・掲示板を積極的に利用できました。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

連絡ノート・掲示板を活用し、利用団体からの意見や要望等については可能な限り速やかに対応しました。
内容によっては事務長・委員長に連絡をして自己判断を避けトラブルにならないように努めました。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市福岡学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市福岡町字深田19番地1
施設規模	敷地面積：1612.3㎡ 建物面積：449.1㎡
指定管理者	名称：岡崎市福岡学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市福岡町字深田19番地1 代表者：委員長 大河内 廣之
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあいまつり
実施内容	ジャグリング&皿回し・中国ゴマ演武 ビンゴゲーム
実施回数	1回
参加人数(人)	44人 (こども：33人、おとな：11人)

(2) 事業実施に対する自己評価

・町内行事が開催されている中で催しではありましたが多くの子どもや大人も参加して下さり日本一の演技をまじかで見ることが出来、良い時をもつことが出来ました。
また、皿回しも体験することが出来良いふれあいのときとなりました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	355	10483	435	3425	13908

(2) 利用状況に対する自己評価

遊びの制限やルールは最小限とし、多くの子どもたちが楽しく遊べるようにレク室のコート利用を予約制にし、口論(喧嘩)になった場合の解決等できるだけ子どもたちの自主性を尊重しながら、同時に事故を未然に防ぐ意識を持ちつつ見守ることで一年間大きな怪我(人)もなく無事終えることができたと思う。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入	24,633
収入 計 (A + B)			429,633
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	408,832
	(うち修繕費)	※精算項目	83,515
	その他(D)	当期剰余金等	20,801
支出 計 (C + D)			429,633
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- 施設の修繕・修理等、消耗品の購入等に適切に費用を充当して収支運営をすることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 施設周りの樹木の剪定や草取り、除草剤の散布を行った。
- 年末の大掃除を利用団体の参加を得て実施した。
- 新しい利用団体も2組増え、時間調整を行い問題なく利用してもらえた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- 利用団体の中には子供の成長に伴い、施設利用を止める団体もいる中で新規の利用団体の登録もあり学区内にこどもの家の存在を知ることが出来た。
- 施設の利用がない時には近隣住民が必要な時に臨時駐車場として貸し出した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- 特になし

和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市大樹寺学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市井ノ口町字片坂13番地
施設規模	敷地面積:1555.72 m ² 建物面積:499.78 m ²
指定管理者	名 称:岡崎市大樹寺学区こどもの家運営委員会 所在地:岡崎市井ノ口町字片坂13番地 代表者:委員長 浅井 誠司
指定期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1)実施状況

実施事業名	大樹寺っこふれあい祭り
実施内容	バルーンアート(ふうせんで動物、雪だるま等) ゲーム(ボール入れ、輪投げ等)
実施回数	1回
参加人数(人)	38人 (こども: 29人、おとな: 9人)

(2)事業実施に対する自己評価

- ・バルーンアートは、ふうせんを使ったアート作品で活躍しているボランティア団体の協力を得て実施し、大いに子供達が盛り上がった。
- ・保護者にも好評となり、子供の来館率も向上した。
- ・ボランティア団体との交流の輪が広がり、子供達の言葉使いや礼儀が芽生えた。

2 施設の利用状況

(1)利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合 計	353	7,340	622	6,973	14,313

(2)利用状況に対する自己評価

- ・指導員のきめ細かな管理により、子供達が安心して、遊べる遊び場が確保されていて多くの子供、来館し、外国の子供も進んで参加している。
- ・利用団体とは、努めて意思疎通を図り、「すぐやるこどもの家」を目標に施設の修理や団体からの要望意見を受けて、改善に努めている。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入	7,382
収入 計 (A + B)			412,384
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	399,917
	(うち修繕費)	※精算項目	81,572
	その他(D)	当期剰余金等	12,467
支出 計 (C + D)			412,384
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・夏場のクーラーの効きが悪いことから扇風機の導入に踏み切り、空気清浄機も併せて子供の部屋の環境改善に努めたが、今後の課題が浮き彫りになった。
- ・常に子供の興味を事前に察知して、色紙を使った工作を積極的に採用して、子供達の自立心を育てた

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・利用者団体が使用する施設器具については、常に適切な管理を依頼しているため、大切に使用されていて、利用者の要望に真摯に答えている。
- ・年間2回に大掃除には、積極的に参加をいただき、施設の良好な環境維持に努められている。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・常に子供に人気のある図書、遊具、ゲームを把握して、その中から子供の健全な発達に寄与でき、人気のあるものを優先的に選定している。
- ・常に施設器具を大切に使用するように指導しているが、修理出来る物は、出来る限り修理し、修理出来ない時に限り部品や器具の購入に努めている。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・マナーやルール違反については、その場において、毅然とした態度で注意し、後日発覚した際は文書や口頭により注意喚起を行い、健全な管理運営に努めている。
- ・常に利用者との意思疎通を大切にして、利用者の苦情の発掘に努め、把握した苦情は、誠意をもって対応し「明るく開かれたこどもの家」をめざして活動している。
- ・常に指導員との意思疎通を共有して、必要により会合などで、再確認している。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市秦梨学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内における子どもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする
施設の所在地	岡崎市秦梨町字世土田20番地1
施設規模	敷地面積：2,056.94㎡ 建物面積：499.95㎡
指定管理者	名称：岡崎市秦梨学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市秦梨町字世土田20番地1 代表者：委員長 天野 博之
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1. 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家ふれあい事業
実施内容	・受付 ・景品くじ引き、お菓子のつかみ取り ・大掃除 ・言うこと一緒、やること反対 ・宅配ゲーム ・ムカデドッチビー ・記念品贈呈(卒業生) ・お菓子配布(参加児童)
実施回数	1回
参加人数(人)	①22人(児童：16人 大人：6人)

(2) 事業実施に対する自己評価

インフルエンザが流行していた時期で、参加者が若干少なくなりましたが参加児童で盛り上がった。

2. 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	278	1,954	54	436	2,390

(2) 利用状況に対する自己評価

小人の利用については年々学校の在校生が減っている状況から残念ながら利用者も減ってきている。指導員からもこどもの家に遊びに来てもらえるよう声掛けをしたり、お楽しみ会や新しい用具を取入れる工夫などして、積極的に利用者を増やすよう努力した。 8.3.31

3. 収支状況

(1) 収支状況

	項 目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入 (A)		402,000
	その他収入 (B)	雑収入 前年度繰越金	8,840
	収入 計 (A + B)		410,840
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、修繕費	405,958
	(うち修繕費)	※清算項目	(87,514)
	その他 (D)	当期剰余金等	4,882
	支出 計 (C + D)		410,840
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理・設備、消耗品の購入等に適切に費用を充て、収支運営することができた。
- ・本年度は階段滑り止め設置、及び老朽化した図書室の座卓テーブルを交換して、ほぼ予算通りに収まり、収支の均衡を図ることができた。

4. その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・本年度も引き続き新型コロナウイルス感染予防対策として、日々施設内の消毒を実施した。
- ・利用者が気持ちよく利用できるよう日々清掃に心がけ、清潔な環境づくりに努めた。
- ・施設内の遊具類のレイアウト変更を行い、児童が使いやすいように改善できた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・放課後行事としての工作材料に予算を充て、年間を通じて季節を取り入れた作品作りを楽しく実施することができた。
- ・少人数でも遊べるものを購入したり、工夫したりして多種多様な遊具の整備に努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・こども同士のトラブルはほとんど無かったが、健康状態やこどもの家で過ごした内容について対応した指導員がその都度、保護者に伝えることで、こどもの家が安心安全であるのご理解していただくよう努めることができた。
- ・利用団体の利用については特別な苦情はなく、利用日の確認等は運営委員長が直接窓口となり、電話等で常にコミュニケーションを取っているため、今後も適正な管理運営を心掛けたい。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市三島学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市明大寺町字仲ケ入12番地
施設規模	敷地面積：2446.4 m ² 建物面積：499.13 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市三島学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市明大寺町字仲ケ入12番地 代表者：委員長 杉本 知治
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業「こどもの家でいっしょに遊ぼう」
実施内容	・マジックショー開催 ・うさぎを使ったマジック、ビッグバルーンを空中に浮かす ・なでしこの会による盆踊り指導
実施回数	1回
参加人数(人)	96人 (こども：79人、おとな：17人)

(2) 事業実施に対する自己評価

昨年に続いてのマジックショーでこども達も目の前で見る本物のマジックショーに興味津々で大好評だった。当日参加人数も多く、気温も高めであったため、気分の悪くなったこどもが数名おり、来年の課題となった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	296	15,813	307	2,850	18,663

(2) 利用状況に対する自己評価

こども達の安心安全な遊び場となるよう見守りをし、遊具の点検、館内の清掃を心がけた。昨年より多くのこども達が利用したが、トラブルもその都度解決する事ができた。利用団体はひと団体増え、団体同士で譲り合い、利用することができた。

8.3.31

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入 (A)		406,000
	その他収入 (B)	社教、利子、前年度繰り越し	46,782
収入 計 (A + B)			452,782
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、管理費、 ふれあい事業費、修繕費	419,950
	(うち修繕費)	※精算項目	112,204
	その他 (D)	当期剰余金	32,832
支出 計 (C + D)			452,782
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修繕、消耗品の購入等に適切に費用を充て、収支運営することができた。
施設の老朽化に伴い、中長期的な予算計画が必要であると感じた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者が利用し易いように整理、整頓に心がけ、また日々の清掃により清潔な環境を作るができた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体とはノートで情報交換を行ない、ニーズ把握をした。またこども達には適時必要物品を購入して対応できた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用者の問合せや要望には、必要に応じて運営委員会や育成課と情報交換をし、真摯に対応した結果、苦情もなく過ごすことができた。

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市恵田学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市恵田町字三月ヶ入 71 番地 1
施設規模	敷地面積：885.35 m ² 建物面積：499.75 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市恵田学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市恵田町字三月ヶ入 71 番地 1 代表者：委員長：柴田 豊
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	収穫感謝祭・餅のさ大会
実施内容	・餅のさ大会 豚汁作り 親子餅作り ・親子・家族・学区民との会食・収穫物販売・写真撮影など ・老人クラブ・学区民と共に餅・とん汁の会食ができた
実施回数	1 回
参加人数（人）	203 人（こども：43人、おとな：160人）

(2) 事業実施に対する自己評価

こどもと地域のふれあいを通じて、世代を超えた親睦と交流が図れた
地域の方々の援助や指導に感謝する

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数（日）	小 人 利用人数 （A）	大人利用		利用人数 合 計 （A）+（B）
			回数	人数（B）	
合 計	277	4292	27	310	4602

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や入学校と
連携した事で多くの児童が利用してくれました

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入 (A)		402,000
	その他収入 (B)	雑収入	156,663
	収入 計 (A + B)		558,663
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	373,409
	(うち修繕費)	※精算項目	(87,200)
	その他 (D)	当期剰余金等	185,254
	支出 計 (C + D)		558,663
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等又室内の環境対策も
適切に費用を充て収支運営する事ができた

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者が気持ち良く利用できる様に、使用後の整理整頓
清掃への協力を呼びかけ良好な環境づくりに努めた

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子どもに人気の遊具、本などを南き取り購入したりして
多種多様な遊具整備に努めた

(3) 苦情対応等に対する自己評価

特に苦情はなかったが、今後も利用者とのコミュニケーションを
密にして適正な管理運営に心掛けた

令和 7 年度事業報告書

公の施設名	岡崎市六ツ美西部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市赤浜町字道本 2 1 番地 1
施設規模	敷地面積：2108㎡ 建物面積：499.5㎡
指定管理者	名 称：岡崎市六ツ美西部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市赤浜町字道本 2 1 番地 1 代表者：委員長 柵木 隆
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ハロウィンパーティー 令和 7 年 10 月 16 日 (木) 15:30~16:30
実施内容	①運営委員長挨拶 ②ルールと進行説明 ③ゲーム (くもの巣くぐり、かぼちゃ福笑い、目玉お玉リレー ハロウィンリング) ④リング全員参加品・リレー優勝チームのみ賞品配付
実施回数	1 回
参加人数 (人)	142 人 (子ども:125 人 大人:17 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

飾り物を夏休みに児童に依頼して、作成してもらい、楽しんでいました。
かぼちゃ福笑いを運営委員さんにお手伝いして貰い助かりました。
大人が仮装して、ハロウィンを盛り上げました。
目玉お玉リレーは全員参加で、楽しんでいました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合 計	356	18,961	570	5,574	24,535

(2) 利用状況に対する自己評価

入館時の手洗い・消毒の徹底と土曜日に遊具・施設内消毒は引き続き
行っています。
レク室入り口に利用団体用のお知らせ・お願いボードを設置。敏速に対応
出来るようになりました。

8.3.31
第 1 次 評価

3 収支状況

42

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収入	指定管理料収入 (A)		408,000
	その他の収入 (B)	雑収入 前年度より繰越金・積立金	33,988
収入 計 (A+B)			441,988
支出	直接管理運営費 (C)	人件費, 事務費, 消耗品費, ふれあい事業費, 修繕費	414,638
	(うち修繕費)	※精算項目	82,680
	その他 (D)	当期余剰金等 次年度繰越金	27,350
支出 計 (C+D)			441,988
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・洗濯機購入により仕事の効率、トイレ便座取替えにより快適になりました。
- ・修繕費の予算8万円以上により返納金0円
- ・ふれあい事業の景品・飾りつけに有効活用しました。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・センター児童が、WBG T値でこどもの家利用ができない日が多くなったので人数を決めて、図書室で遊ばせました。
- ・利用団体が増えた為、事務長と頻繁に連絡を取り合い、クレームやルールの徹底など、即座に対応しました。
- ・LEDセンサーライトを設置し、安全対策をしました。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・新しいおもちゃを購入して、図書室でこども達が楽しく遊べる様に工夫したり、常に子どもの読みたい本を購入しました。
- ・放課後こども教室 ボランティアとして、こども達が楽しめる季節の工作・行事等を行い、こども達から好評を得ることが出来ました。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・レク室入り口に利用団体用のお願い・お知らせボードを設置し、敏速に対応できるようになりました。
- ・育成センターが2館のため、センター支援員と報告・連絡・相談に努めました。
- ・ケガ防止のために、指導員と支援員のレク室立ち位置を決めました。